

奮

闘のボイス

小野 真由美 選手

スキルアップを目指して渡豪した小野選手。AHLを経験して、どのような手応えを感じたのか。

Q: NT代表チームはいかがでしたか？

A: 他のチームに比べ、NT代表チームは全員が揃って練習したのがこの大会の1週間前で、合わないところもありました。また、代表レベルの選手が集まっているわけではなかったので厳しかったですね。その中で私自身は個人のスキルアップというのをまず第一に考えて、周りのミスがあっても、欲しい時にパスがもらえて、良いパスが出せたら私の仕事はオッケーだと考えるようにしました。まず、自分の仕事が達成できたということを自信にして、自分のプレーをしっかりと評価してきました。

Q: 大会を終えての感想は？

A: 大会の結果は8位ということで最下位になり、チームに貢献できなかったのがすごく悔しかったです。個人のスキルとしては、6得点4アシストで、少しはレベルアップできたかなと思うんですけど、チームを動かせるくらいの力がまだないというのをすごく痛感したので、そういうプレーができる選手になっていきたいな、と思いました。

Q: その中での収穫は？

A: やっぱりオーストラリアのスピー

ドというのは、日本ではあまりないですね。今回、ボールスピードなどへの対応力はついたかなと思うんですけど、まだ足りません。それと、日本の勢い以上に、ここはすごくスピードやパワー、気持ちなどで勢いを感じました。そういうところも日本に持ち帰って、それで自分もそういうプレーができるようになったら、相手にとってすごく嫌な存在になれると思います。今回、自分の足りないものが明確になったので、日本でしっかり練習して、もっともっと伸ばして、もっと良い選手になりたいなと思います。

Q: 今、目指しているものは？

A: もちろん北京五輪です。でも代表に選ばれるだけではなくて、そこで自分のプレーもちゃんとしたいです。イレブンに選ばれて、自分の与えられたポジションをしっかりこなしたいなと思っています。

Q: これから五輪の代表最終選考がありますが、自信は？

A: 70分間走りきるスタミナは誰よりもあると思っています。あと、フォワードやミッドフィルダーへのパスが一番良いものを出せるんじゃないかなと思います。



Q: 「さくらジャパン」はメダルが期待されていますが。

A: チームとしても、やっぱりメダルを狙っていますね。そのために、毎日毎日すごくハードな練習を今も耐えて頑張っています。毎月他国の代表チームを呼んで、トレーニングマッチとかもやっています。

Q: ご自身の目標は？

A: もちろん金メダルです。できる限り上に。それと同時に、今回思った自分の課題というものをしっかり活かした上で、自分らしいホッケーをオリンピックの舞台上で表現できたらと思うので、もっと自信を持って、もっと幅広いホッケーができるように練習したいです。

Q: 北京五輪後の目標を教えてください。

A: 難しい…。今は、北京の後のことは考えていません。

Q: 小野選手にとってホッケーとは。

A: なくてはならないもの、今は。私の人生はこれを中心に回ってますので、今は生活の一番上にあるものです。

Q: それだけホッケーが好きということでしょうか。

A: 多分そうだと思います。これだけやっても飽きずに、これだけやっても十分だと感じられない、なければならぬものですね。一番自分らしくいれる時なのかな、と思います。

